



絵手紙 武井和世

**新年
あけまして
おめでとうございます**

一般社団法人幸樹会代表理事 中野三代子

昨年9月に幸樹会館が完成し、小規模多機能型居宅介護さんしょうがオープン、幸樹会の事業所は6つになり、職員も昨年の3倍に増えて活気ある新年を迎えることができました。これもひとえに地域の皆さんや関係機関の皆さんのご指導ご支援のおかげです。ありがとうございました。



幸樹会では、事業所に樹木の名前をつけています。ひとつひとつの事業所を幸せの樹を1本1本植え、育てる気持ちで開設・運営し、森のように地域に根を張っていきたいという気持ちが元になっています。からたち薬局、あんず訪問看護ステーション、からたち薬局併設介護ショップからたち、あんず居宅介護支援事

業所、ケアステーションゆず、看護小規模多機能型居宅介護さんしょうと、小さな森ができました。まだまだ幼樹ですが、しっかり根を張りたいものです。

今年は酉年です。「酉」という字は酒つぼを描いたもので、収穫した作物から酒を抽出する意味や、「実る」(成熟)ということを表しているということです。私たちの森も2017年は葉を繁らせ、花を咲かせ、実を結ぶよう努力を続けたいと思っています。

幸樹会は、①一人ひとりの生活・人生を尊重し、良くするケアの提供、②学びの重視、生き生きとした職場づくり、③全職員参加で健全な経営を実現、④安心して暮らし続けることができる地域づくりに貢献する、ということを事業の目標にしています。これらを実践することにより成熟した組織になるよう努めます。月1回の定例学習会には地域の方々も参加してくださいまして、地域交流カフェやあんず畑のお芋掘り大会などは回を重ねる毎に参加者が増えていきます。職員もこれらの地域の方々の参加にエネルギーを得て、学びを大切に活動を続けたいと思っています。

2017年も職員一同がんばります。本年もどうぞよろしくお願いたします。



▲恒例の職員ハンドベル部・手話部の演奏



第6回地域交流カフェ

クリスマスを楽しむ

12月20日の第6回地域交流カフェには40名を超える皆さんにご参加いただきました。今回はクリスマスとさんしょう利用者の誕生も祝いました。

河原塚にお住まいの内中澄江さん他4名の方々が「松戸の昔話」の紙芝居をしてくださいました。パーキンソン病と闘いながら、歌や朗読、琵琶、紙芝居などを通して地域交流、地域活動をしている作者の内中澄江さんはじめ、語りと琵琶演奏の皆さんの上演に、集まった皆さんも職員も大喜びの拍手。

近隣の教会グレースホームからは岡野俊之牧師さんと聖歌隊の皆さんがきてくださいました。クリスマスのお話や、讃美歌にクリスマス気分が大きく盛り上がりました。

カフェでは、支援者の二人の“釣り師”からの差し入れのふぐちり鍋とヒラマサのお刺身、グレースホームの皆さんや地域の皆さんが持ち寄ってくださったサンドイッチ、ミートボール、肉じゃが、お汁粉、カスピ海ヨーグルトなどご馳走が並びました。みんなで作ったクリスマスケーキもあって、お腹も心もいっぱいになりました。

クリスマスプレゼントは、利用者さんと職員が一緒に作った携帯カイロカバーです。生地や、飾りにつけたボタンはあんず訪問看護ステーションの利用者の方がくださったもの。長く洋裁をしておられた方で、かわいい余地を沢山くださいました。縫い目がバラバラなのはご愛嬌。小学校の家庭科以来針を持ったことのない職員も頑張りました。



▲紙芝居まつどむかしばなし『こうとくじのキツネ』



▲グレースホーム聖歌隊の皆さん、中央が岡野俊之牧師



▲利用者・職員みんなで作ったケーキ(上)、松かさツリー(左)、携帯カイロカバー(右)

嫌がることはしない！

介護をもっと深く学びたい

幸樹会では、就活している人、職業選択で悩んでいる人などを近隣の皆さんに紹介していただいたりして、介護の仕事のお話をし、介護の道に進もうとする方々を増やそうと努め、資格取得研修支援も行っています。その結果、昨年から今年にかけて4名の方が新たに介護職になりました。そのうちの一人、12月29日に千住介護福祉専門学校の初任者研修講座を修了したばかりの野中智章さん(23歳)に、夜勤入りの大晦日の夕方、インタビューしました。

一介護の仕事に就いたのは、どうしてですか？

初めは親の勧めですが、友達が介護職(特養)で働いていて、その話を聞いたときには介護職なんて自分には無理だと思っていました。けれども、中野理事長から看多機さんしょうという事業所の役割や展望などを聞いて興味がわき、やってみようと思いました。

一初任者研修で、学んでよかったことは？

介護における基礎的な事を教えてもらいました。演習では介護職側と利用者側とをやらせてもらい、利用者さん側の立場を経験させて頂くことにより、何をされたら嫌かがよくわかり、だから嫌がることはしない、こうされたら良かったなどというのを学びました。

一入職して4か月ですが、高齢者の印象はどうですか？

介護の仕事をする前と今では高齢者に対する印象はだいぶ変わりました。正直やる前は高齢者に対してあまりいい印象はなかったですが、今では介護をするという立場ですが、利用者さんに教えてもらうことや、励ましてもらうことが多いです。

一趣味・スポーツは、どんなことが好きですか？

好きなスポーツはサッカーです。趣味は友達と温泉に行くことです。最近では会津、箱根などの温泉を楽しみました。

一生活の中で、大切にしていることは？

何か行動する時には、常に頭で考えてから、行動するように心がけてます

一今年の抱負は？

介護ということをもっと深く知りたいと思ってます。それと月に1回は温泉に行きたいと思ってます。

一野中さんは、介護職をめざすまで、迷いもあったようですが、今では、送迎・夜勤もこなす立派な介護職員です。学校で習ったこともすぐ実践していました。

立ち上がりにくい利用者さんの介助が、とても丁寧で上手になっていてびっくりしました。利用者さんからも人気があります。自分の知らない色々なことをたくさん利用者の皆さんに教えてもらっていますね。野中さんの素直なところが利用者さんに好かれています。皆さんとの温泉談義には、花が咲くでしょう。



野中智章さん



“みんなで食べる” “おいしい。友達もできる” “たまには外食してみたい”。さんしょう利用者のみなさんのご要望にお応えして、みんなでレストランへ(写真上)。話もはずみ、みなさんニコニコ顔。



嚥下が難しいAさんが、さんしょうを利用することになり、介護職員たちがゼリー食に挑戦。つくりかたを調べ、失敗しながらも創意工夫の結果、「ゼリー鍋」(写真左)も創作。一口食べたAさんは、「おいしい！」、目からは涙…。固唾をのんで見守っていた職員から「ワー！」という歓声…。



「食」・「口から食べる」ことの深さと広さ、楽しさを利用者のみなさんからあらためて学ばせていただいている日々です。

第7回地域交流カフェのご案内

2月21日(火) 12:00~14:00 参加自由

餅つき大会 からたち薬局隣敷地





伝達学習で、みんなのものに！

幸樹会の介護職員たちが、開講中の千住介護福祉専門学校の介護職員向け講座（全7テーマ）に参加しています。

①介護現場におけるリスクマネジメント、②冬に流行する感染症とその対策、③福祉用具を活用した安心安全の移動・移乗支援、④高齢者の整容支援、⑤いつの間にか楽しく口腔ケア、⑥介護職員のための調理実習、⑦レクレーション介護士2級講座と、学びたい内容がいっぱいです。全員受講したいところですが、日程もあり一人か二人ずつしか参加できないのです。参加すると刺激を受けて他の介護職員にも伝えたいとなります。そこで伝達講習をすることになりました。

12月は「現場でのヒヤリハットのワーク・分析」「冬に流行する感染症の対策」「福祉用具を活用して安心安全に移乗」を伝達しました。写真は、スライディングボードを使ってご本人も介護者も体に負担のかからない移乗の練習（写真上）、ベッド上で身体の位置が足のほうにずれてしまった方を、家にあるビニール袋とバス



タオルを使って身体の位置を整える練習（写真下）をしているところです。身体の大きな方も、身体の小さな介護職員が楽々うごかすことができます。介護職員も看護師もケアマネジャーも参加して法人全体で学びます。

この講習を受けて、皆で声を掛け合って確認しあう大切さを知り、ヒヤリハットの報告用紙を見直したり、冬に流行する感染症の拡大を防ぐために用具のセットを作ったり、マニュアルを見直したり、お互いに移乗の自主練習をしたり…。

今後も学びあうことを大切にしたいと思います。



今月の屋上太陽光発電量は…

729kwh

幸樹会館電力使用量 544kwh 自給率 13.4%

幸樹会基金募集中

幸樹会は、基金制度をもつ非営利型一般社団法人です。在宅ケア事業の発展と、法人の経営を健全なものにしていくために基金を募集しています。基金は、1口1万円（何口でも可）。協同組合や生協の出資金制度と同じように、基金は法人の財政基盤となる自己資本となります。条件を満たした時には返済をいたします。お問い合わせは、幸樹会本部までお願いいたします。

定期勉強会

●前回報告 12月16日（金）実施

テーマ「認知症ケアの実際」

助言者 武井幸穂氏

【参加者感想】

朴美蘭さんを講師に「認知症ケアのセオリー」と題して、「パーソンセンターケア」（英国）、「ユマニチュード」（仏）、「バリデーション」（米）「タテールケア」（スウェーデン）の認知症ケアの特徴を学んだ。どこでも、その人の生活と人生を中心に据えたケアの時代を迎えていることが理解できた。

●次回学習会予定

日時：1月16日（金）18：30～19：30

テーマ：「認知症ケア、こんな時どうする？どうした!?—あんず訪問看護の実践から」

*場所：幸樹会館2階 *参加自由

ホームページ・ブログ

●幸樹会ホームページ

<http://www.kouju-kai.or.jp/>

●からたち薬局 ブログ

<http://ameblo.jp/karatachi-p/>

●あんず訪問看護ステーション ブログ

<http://ameblo.jp/anzu-kouju-kai/>

●ケアステーションゆず ブログ

<http://ameblo.jp/yuzu-kouzyukai/>

一緒ににはたきませんか！

薬剤師・看護師・介護職員・ケアマネジャーの方々、お待ちしております☆

連絡先 一般社団法人幸樹会本部 中野三代子

住所：千葉県松戸市河原塚 411-1

TEL：047-701-7550

E-mail：miyoko-nakano@kouju-kai.or.jp

編集後記

2017年を迎えました。今年も4名の職員が松戸市七草マラソン（1/8）を走ります。『幸樹』は22号、2年近く毎月発行しています。発行部数は800部に増えて毎月楽しみにしてくださっている読者もいらつやいます。編集委員一同、今年も元気な幸樹会の様子をお伝えできるよう頑張ろう！と、張り切っています。イベントも継続して行きます。2月21日の交流カフェは餅つきです。ぜひ、おいでください。（な）